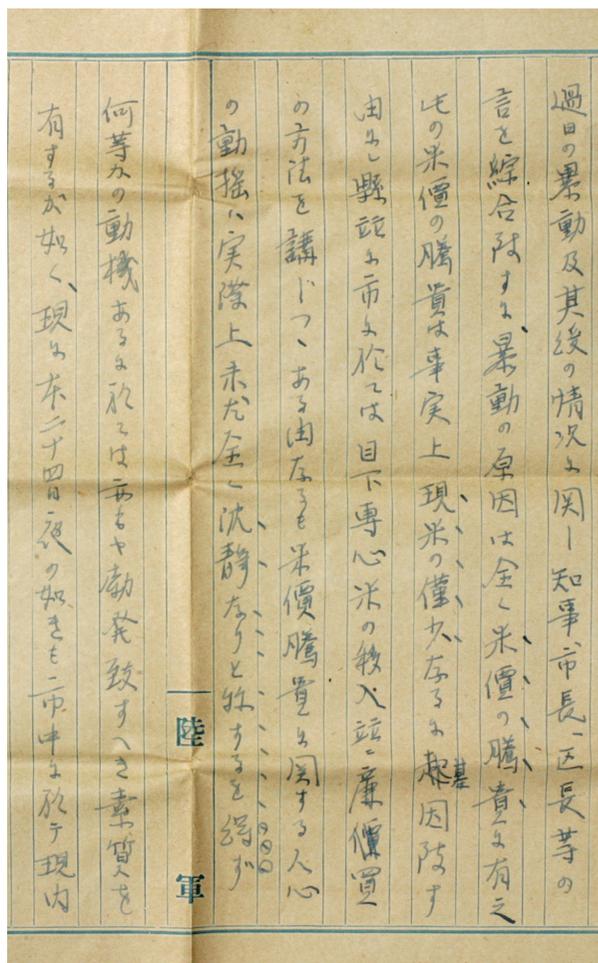


米騒動



- * 田中義一文書711「児玉友雄書翰（陸軍歩兵少佐）名古屋に於ける米騒動の報告」
- * 田中義一は明治～昭和戦前期に活躍した陸軍軍人・政治家で、1927～29（昭和2～4）年に首相を務めました。田中義一文書には、その活動に伴って作成・授受された文書1,603点が収められています。

解説

第一次世界大戦により、日本の経済は好況となりました。輸出が増大し、重化学工業の発展が見られた半面、国内で生活に必要な物資が不足したために物価が上がりました。

1918（大正7）年、この物価上昇に加え、8月からのシベリア出兵をあてこんだ米の買い占めや売りおしみにより米価が上昇したため、米の安売りを求める米騒動が全国に広がりました。これに対し、政府は鎮圧のために警察と軍隊を出動させるなどしました。

写真は、当時の陸軍参謀次長であった田中義一にあてられた陸軍歩兵少佐児玉友雄からの書簡です。1918（大正7）年8月24日現在での名古屋における米騒動の状況が記されています。そこでは、シベリア出兵にむけての動員が順調にすすんでいる様子と、「暴動の原因は全く米価の騰貴にこれ有り。（中略）米価高騰に関する人心の動揺は實際上未だ全く沈静なりと称するを得ず。何らかの動機あるにおいては又もや勃発致すべき素質を有する」と名古屋における緊迫した状況が報告されています。また、シベリア出兵動員兵士のための食料調達が、一層の米不足を招いていることにも触れています。これに続く同年8月28日付の書簡（田中義一文書712）では、人々が米騒動に加えシベリア出兵への応召を不安に思っている状況が伝えられています。

- * 県内では、宇部で最大規模となる米騒動が起きました。県立山口図書館にその様子を伝える『馬関毎日新聞』（1918〔大正7〕年8月20日付）が所蔵されています。